

「教科書『あきこと友だち』を中心としたタイの教師養成プログラム」

国際交流基金日本語国際センター客員講師

鈴木由美子 syumiko@gmail.com

キーワード：タイの中等教育、新規研修、『あきこと友だち』、教師の役割

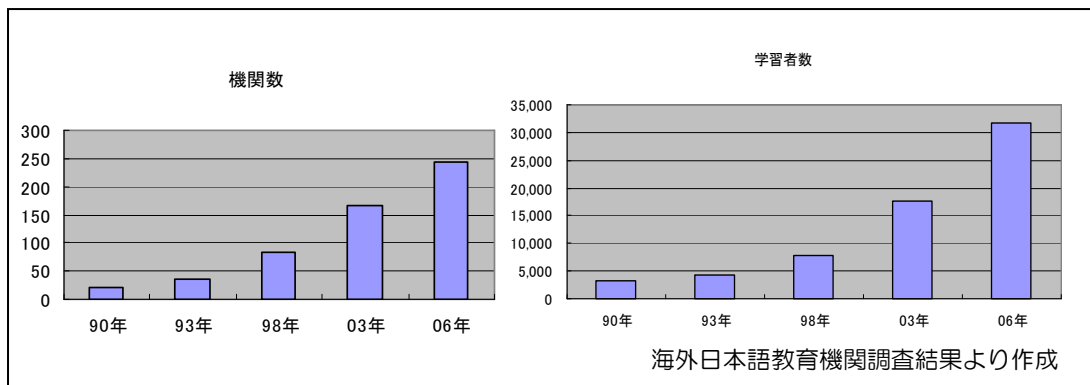
1. タイの中等教育における日本語教育

(1) 機関・学習者数の増加

表1. 2006年度海外日本語教育機関調査結果

機関種別	機関数	学習者数	教師数
初・中等教育	243	31,679	398
高等教育	99	21,634	359
学校外教育	43	17,770	396
合計	385	71,083	1,153

図1. 初等中等教育段階の機関数・学習者数の推移



(2) 日本語教師養成機関（現在中等教育の日本語教師養成は、バンコク日本文化センター以外ではコンケン大学・プラパー大学で行われている）

(3) 現職日本語教師の様々な背景

2. 「中等学校現職教員日本語教師新規養成講座（以下、新規研修）」

2.1. 概要

- (1) 中等学校の他教科教員を日本語教員に養成するプログラム
- (2) 国際交流基金バンコク日本文化センターとタイ教育省の共催事業
- (3) 1994年から開始
- (4) 修了生（1期から11期）：189名
- (5) 1期（1994年度）～9期（2003年度）：『あきこと友だち』以外の教材を使用、訪日研修あり
- (6) 10期（2006年度）～現在：『あきこと友だち』を使用、訪日研修なし

2.2. 目標

- (1) 初級終了レベルまたは日本語能力試験3級程度の日本語力を身につける
- (2) 中等学校で教えるのにふさわしい日本語教授技術を身につける
- (3) 日本文化・日本事情についての理解を深め、生徒に紹介できるように方法を身につける

2.3. 期間

約10ヶ月間(11期:2007年5月21日~2008年4月4日)

2.4. 資格・条件(2007年度)

- (1) 教育省管轄の公立学校の教員であること
- (2) 40歳以下であること
- (3) 教師経験が2年以上あること
- (4) 研修終了後、最低3年間は日本語を教えること

2.5. コースカリキュラム

2.5.1. 学習時間・科目

資料1. 参照

2.5.2. 時間割

資料2-1. 資料2-2. 参照

2.5.3. 主教材

『あきこと友だち』

- ①構成:本冊6分冊(音声CD付)、ワークブック3分冊
- ②特徴
 - ・コミュニケーション重視の教科書
 - ・機能を明確にし、その課の学習で何ができるようになるかを明示
- ③到達目標:日本語初級(各課に学習目標。タイの高校生の日常生活を想定)
- ④各課の構成:学習目標→キーセンテンス→会話→練習→文法説明→ことば→漢字→ミニ情報(日本文化や社会等についての情報)

3. 現場で必要とされる教師の力

- (1) タイの中等教育段階の子どもに必要とされる日本語学習について理解し、教えることができる

・「2001年基礎教育カリキュラム」

内容1. コミュニケーションのための言語

内容2. 言語と文化(タイの言語と文化との類似性と相違性を理解する)

内容3. 言語と他の学習内容グループとの関係

内容4. 言語とコミュニティーや世界との関係

タイ文部省(2004)『タイ仏暦2544(2001)年基礎教育カリキュラム』

→『あきこと友だち』は上記の内容に則って作成された。

- (2) 行事や活動などの企画・運営
- (3) 地域の教師間の連携、日本人ボランティアとの関係作り

4. 『あきこと友だち』を中心とした教師養成の特徴

- (1) 学習者体験→学習者として『あきこと友だち』を学ぶことで、学生の気持ちが理解できる
- (2) 教授法→『あきこと友だち』を使った教え方を実際に見ることができる
- (3) 教材分析→『あきこと友だち』の特徴を理解し、それに沿った教え方ができる

5. どう養成しようとしたか

5.1. 日本語と教授法の学習

- (1) 「総合日本語」
 - ・毎週1課ずつの進捗で日本語学習、最終日に課テスト
 - 資料2-1. 資料2-2. 参照
- (2) 「能力試験対策」
 - ・12月に日本語能力試験4級受験、最終試験（日本語能力試験3級）のための学習
- (3) 「教授法Ⅰ」
 - ・毎週1課が終了した後で、練習問題の構成、練習問題が何を目的にしているか、担当講師はどのような教え方をしていたかを振り返る
- (4) 「教授法Ⅱ」
 - ・他教材との比較・分析
 - ・カリキュラム、シラバス分析
 - ・4技能別指導法
 - ・模擬授業（一回目はグループで、二回目は一人で）

5.2. 行事や活動などの企画・運営

- (1) 「日本事情」
 - ・『あきこと友だち』の各課にある「ミニ情報」やその他の教材を使用
 - 資料3. 参照
 - ・タイ人講師の日本経験とシェア紹介
 - ・リソースの入手先紹介（書店、100円ショップ、日系デパート、インターネット上の情報など）
 - ・日本人学校見学
- (2) 「ボランティアとの活動」
 - ・ボランティアのお宅で日本料理体験
 - ・お正月の遊び・茶道・書道・生け花などを体験
 - ・タイの文化紹介（タイダンス・タイの食べ物・行事等）

5.3. 地域の教師間の連携、日本人ボランティアとの関係作り

- (1) 「会話」
 - ・既習の学習項目を使ったボランティアとの会話のロールプレイ（学校案内、待ち合わせ、道案内、依頼など）

(2) 「ボランティアとの活動」

- ・ 様々な活動を日本人の方と共に（観光地案内など）

(3) 「課外活動」

- ・ 日本語キャンプ（コンテストでの種目、キャンプでの活動を体験）
- ・ 新規研修修了生との交流（日本語コンテスト、キャンプ、文化祭などの実践報告）

6. 成果と今後の課題

6.1. 成果

- (2) 教師観の変化
- (3) 教材、教授法についての理解と教えることへの自信

6.2. 課題

- (4) 口頭、聴解能力の向上
- (5) フォローアップ研修の機会

<添付資料>

資料 1. 2007 年度学期別科目コマ数

資料 2-1. 『あきこと友だち』授業実施例（第 8 課）時間割

資料 2-2. 『あきこと友だち』授業実施例（第 8 課）授業内容

資料 3. 科目別使用教材一覧

<参考文献>

国際交流基金バンコク日本文化センター（2005）『中等学校現職教員日本語教師新規養成講座（新規研修）研修の評価・追跡調査報告書』、国際交流基金バンコク日本文化センター
タイ文部省（2004）『タイ仏暦 2544（2001）年基礎教育カリキュラム』森下稔、鈴木康
郎、カンピラパーブスネット訳（非売品）

野畑理佳、ウィパー・ガムチャントコーン（2006）「タイにおける中等学校日本語教員養成講
座の概要と追跡調査報告：タイ後期中等教育における日本語クラスの現状」『世界の日本語教
育日本語教育論集』Vol.16、独立行政法人国際交流基金、169-187

八田直美（2007）「タイの日本語教育」第 13 回海外日本語教育研究会

ブッサバー・バンチョンマニー（2005）「タイの中等教育用日本語教科書『あきこと友だち』
の開発」『日本語教育通信』51 号

<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/48-50_pdf/tushin51/NK51_04-05.pdf> 2009 年 1 月 23
日参照

プラニー・チョンスッチャリットットタム（2004）「タイ国後期中等教育のための日本語シラ
バス」『世界の日本語教育』第 7 号、国際交流基金日本語国際センター、71-82

プラパー・セーントーンスック、八田直美（2005）「文化リテラシーを身につけるための授業
設計のストラテジーと『あきこと友だち』」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語
教育紀要』第 2 号、国際交流基金バンコク日本文化センター、171-176

プラパー・セーントーンスック、前田綱紀（2004）「タイ国中等教育用日本語教科書『日本語
あきこと友だち』作成」第 10 回海外日本語教育研究会

<http://www.jpf.go.jp/j/urawa/world/chek/wld_03_22_02.html> 2009 年 1 月 11 日参照

矢部まゆみ（2001）「海外の初中等教育における日本語教育と文化リテラシー」『21 世
紀の日本事情』3 号、くろしお出版、16-29